



新年明けましておめでとうございます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新しい1年が始まりました。今年は巳年。個人的に、ちょっとヘビは苦手ですが、巳年は『再生と成長のシンボルとして縁起の良い年』とされているようです。

美作第一小学校も『再生と成長』の年となるよう、児童・保護者・教職員、地域の方々、共に力を合わせて歩んでいきたいと思っています。お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

悪運を断ち切り幸運を呼ぶ（役に立つかも）

お正月らしく、こんな記事がありましたので少し紹介させていただきます。

お正月からどうしてもこんなことが・・・と落ち込むようなことはありませんでしたか？そんなとき、「運が無いわ」「ついてないわ」なんて言葉がついつい口から出てしまいますよね。運・・・というと、ラッキー（神様からの思いがけないプレゼント）という印象が強くあります。しかし、神様からのプレゼントであっても、それを引き寄せる方法があるということです。その方法とは、『物事の見方を変える力を身に付ける』ことだそうです。具体的な事例をいくつか紹介しましょう。

①「お皿が割れる」という事案が発生したとします。（お正月から嫌なことが・・・）と思いがちですが、そうではなく（お皿割ってしまったけど、買い替え時だったかも）

②「ケガをした」場合、（もう最悪・・・）ではなく、（これぐらいで済んで不幸中の幸い）

③めんどろな頼まれ事や気が進まないことをやらなければならない場面では、（私は今、徳（善行）を積んでいる）と思考を置き換える

つまり、人生は予期せぬことの連続であり、それを避けることはできない。しかし、予期せぬできごとが起きた場合、それをどう見るか、心を選ぶことは誰にでもできること。それこそが悪運を断ち切り、幸運を引き寄せる方法なのだそうです。

それでも、落ち込むことは誰にでもあります。そんな時には、「耳福・眼福・口福」を大切にするといいそうです。

“耳福（じふく）・眼福（がんぷく）・口福（こうふく）”といい、

- ・すてきな音楽や自然の中にある音色を聴く幸せ
- ・美しい景色や彩りを目にしたときの幸せ
- ・おいしい物を味わったときの幸せ、

とのこと。つまり、五感で感じる幸せは、すぐそばに転がっていることを思い出すことが大切なのだそうです。

自分の人生に自分で責任をもつ子どもへ

みなさんは **OECD** という言葉をご存じでしょうか。**OECD** とは、正式名称を「経済協力開発機構」といい、経済的側面における「共有の価値」を有する38か国で構成された国際機関です。その**OECD**が加盟国の義務教育を終えた15歳を対象に、次世代を担う子どもたちの学力を調査する国際学力調査（PISA：ピサ）があります。そこでは、様々なことについて国際基準による調査が行われており、2022年実施（3年に1度）の調査でも、日本は上位の成績を残しています。

ところがいくつかのアンケート設問では、最下位に近い数値を示す項目があります。それがどのような設問かということ、

①もう一度コロナ渦になったとき、自力で学校の勉強をこなす自信があるか。

あると回答（世界平均71.5%, 日本41.6%）

②自分の学習の進み具合を自分で評価できるか。
できると回答（世界平均65.4%, 日本34.7%）

③自分でオンラインソースを活用し学習できるか。
できると回答（世界平均72.7%, 日本32.6%）

つまり、点数としては優秀な成績を収めていても、主体的に学ぶことができない（自分に自信が無い、何をすればいいのか自分で課題を発見できない）子どもたちの現状が浮き彫りになっています。

「運」の話と共通するのは、これも「心」の話ということです。点数で測る「知識量」が重要で無いとは言いません。しかし、「心」をどのように育てるかが、今大きく問われています。それこそが、子どもたちが人生を幸せに、そして、子どもたちが未来を切り拓き生き抜く力なのだと捉えています。本校は、そんな「心」を大切にしたいと考えています。